

# Tokyo × Kosice 2013/2014



## Youkobo Art Space

Zempukuji 3-2-10, Suginamiku, Tokyo 167-0041 JAPAN  
Tel:+81(0)3-5930-5009 Fax:+81(0)3-3399-7549 Mail:info@youkobo.co.jp  
www.youkobop.co.jp



# Contents

## Preface

- 海外滞在制作（Artist in Residence, AIR）活動を通して欧州文化首都から学ぶこと 遊工房アートスペース 村田 達彦
- 交流 2014：KAIR X 遊工房アートスペース K.A.I.R. プログラム・ディレクター スザナ・コティコヴァ

1. ボリス・シルカ in 遊工房アートスペース, 東京
2. その場所で制作すること 津田 道子 in K.A.I.R., コシチェ
3. 切断されるということ 金井 学 in K.A.I.R., コシチェ

## 4. 受入施設

- 遊工房アートスペース
- K.A.I.R.

## 5. マイクロレジデンス Y-AIR

# AIR 活動を通して欧州文化首都から学ぶこと

## —欧州文化首都 x 東京 アーティスト・イン・レジデンス (AIR) プログラム



### 遊工房アートスペース・村田達彦

#### プログラムのあらまし

長い歴史を持つ欧州文化首都制度の精神を与し、欧州文化首都とアジアの大都市・東京とのアーティストの相互交換による滞在制作を通じた交流プログラムである。これまでの欧州文化首都に制定されている都市での現代美術についての実態は、日本ではあまり紹介されていないが、非常に魅力的な展開が見られる都市が多々ある。遊工房アートスペースでは、EU・ジャパンフェスト日本委員会の全面的な協力と支援のもと、欧州文化首都からの若手アーティストをレジデンスプログラムに積極的に受け入れるよう試みてきた。

2013年、スロバキアの Kosice が欧州文化首都としてレジデンスプログラムを始めたことから、この交換プログラムの継続運用の道が開かれることになった。これまで、ロンドン、ベルリン、パリ、アムステルダムなどで活動するアーティストに偏りがちな来日のチャンスを、他の都市を拠点とする作家たちにも広げ、彼らのキャリアアップを支援したい。また、人物を招聘し、交流の機会を持つというプログラムの特質を活かして、日本におけるヨーロッパの現代美術の公平で正しい理解の促進にも寄与したいと考え、このプログラムを通じて培った交流をネットワークとして活用し、日本から欧州文化首都へ、日本の若手アーティストを派遣する機会もあわせて実現させ、継続的な芸術交流の促進を図っていく。2013年の欧州文化首都のスロバキア Kosice のレジデンスプログラム K.A.I.R と、東京の遊工房と、双方の都市でのそれぞれ3ヶ月間の滞在制作の体験プログラムを基本にアーティストの交換を通じた交流の覚書を締結。(2012年)。2013年1月、遊工房にスロバキアから Erik Sille を先頭に、3月、K.A.I.R. に日本から洗川寿華、その後、10月、金井学、2014年9月、津田道子、スロバキアからは、2014年10月に Boris Silka と継続、それぞれの都市にて制作した作品の展示と共に相互都市での交流が図られた。

本報告書は、2014年を中心の報告書としてまとめた。また、2013年金井学の活動記録は、EU ジャパンフェスト公式報告書・第21次と情報シェアする形で、同様の記事を巻末に掲載している。

#### その後の展開

交流を通じた多くの成果の継承の為、KAIRと交換プログラムの継続とともに、同様の相互の若手アーティストへの異国での滞在制作の機会と場の創出の模索として2013年以降の欧州文化首都でのAIRとの接触を試みている。その中で、2014年欧州文化首都のチェコ・Pilsen 市にある西ボヘミア大学で10年もの間継続開催されている、3週間のサマースクール・ArtCamp にEU ジャパンフェスト古木事務局長から紹介を頂き、初めて日本からの若手アーティスト・佐々木美穂子を派遣した。(注1) このサマーカーンプへの派遣は、翌年2014年には若手アーティストに加え、全国的美術系大学の協力も得て合計10名の参加の機会に発展した。さらに、現地AIR (OPEN AIR) 交換プログラムも始まった。(注2) また、欧州ラトビア・Riga でのアートイベントへの滞在制作機会として、国際Peper Object Festival さらに、Riga 市郊外のKurudiga 市のレジデンス Program での壁画Projectへの参画(注3)などへ発展している。

#### 欧州文化首都との活動のきっかけなど

欧州文化首都との関わりは、2008年リトアニアからの2人のアーティスト Saulius Valius と Diana Radaviciute の遊工房での滞在制作、発表がきっかけとなり、翌年、2009年欧州文化首都リトアニア・ヴィルニスの機会に、EU・ジャパンフェスト日本委員会の支援を得て、両国のアーティストによる交流展「雨と太陽の出会い—虹の架け橋」を開催した。日本から12名のアーティストと2つの文化団体、リトアニアは9名のアーティストと地元の美術館などが参画、大きな成果を果たした。その後、2010年欧州文化首都のトルコ・イスタンブールから若手アーティスト Merve Ertufan の遊工房での2ヶ月間の滞在制作活動、2013年ポルトガル・ギマライエスへの門田光雅の派遣と続いている。遊工房で実施している、規模は小さいが、個々の顔が見えるアーティストの交換の試みは、同様の活動をしているレジデンス仲間との情報の共有により一層の発展が期待される。欧州文化首都ばかりでなく、アジアの都市での展開など「マイクロレジデンス」(注4)がその活動の核となるかもしれない。さらに、国内AIRプログラムへの横展開にも期待して、「AIR ネットワーク Japan」(注5)への接続も図っている。

(注1) 西ボヘミア大学サマースクール・ArtCamp、初めての日本人参加記録:「Tokyo × Kosice 2013 and from now on -Artist in Residence Exchange Program between Youkobo, Tokyo and European Capital of Culture Activity Report Part 1」

(注2) 2014年夏、Pilsen での体験活動記録:「Artist in residences as opportunities and places for young artists -The possibilities of Y-AIR in a trial between Japan and ECoC, Pilsen」

(注3) 2014年初、Riga での滞在制作活動記録:「European Capital of Culture, ECoC 2014 Riga -Report on a Collaborative Exchange between Japan and the European Capital of Culture」

(注4) 「マイクロレジデンス」のこと:「MICRORESIDENCE! 2012- アーティスト・イン・レジデンス、マイクロレジデンスからの視点」

(注5) 「AIR ネットワーク Japan」のこと:「国際交流基金データベース、AIR-J」<<http://air-j.info>>

# 交流 2014 : KAIR X 遊工房アトスペース



## K.A.I.R. プログラム・ディレクター ズザナ・コティコヴァ

K.A.I.R. (コシツェ・アーティスト・イン・レジデンス) は国際的なレジデンス・プログラムとして発足した、コシツェが欧州文化首都に任命された際の主要なプログラムの一つです。このプロジェクトは2011年より始動し、それ以来提携先組織との協力の元、70人以上のアーティストの国境を越えた移動を手助けしています。遊工房アトスペースと K.A.I.R. のレジデンス交換プログラムは2013年の初頭に開始され、第一回目としてスロヴァキア人アーティストであるエリック・シレが東京で、日本から洗川寿華がコシツェで其々3ヶ月滞在制作を行いました。第一回目の交換プログラムが大きな成功を収めたことにより、この協力体制の継続が決定されました。

2013年の秋には日本より金井学を3ヶ月の滞在制作に招請し、旧兵舎を改装して建てられた Kasárne/Kulturpark 文化センターを拠点に、サイト・スペシフィックなインスタレーション作品「Interpenetrating Spaces, Suspended Coincidence」が制作されました。この作品では作家の興味でもある、空間と時間を抽象化/描写する独立した技法が用いられ、特定の芸術形式を生成するプロセスが踏襲され、Kasárne/Kulturpark の一室にある展示スペースの特徴的な構造に基づいた観衆の時空間感覚を脱構築し、再結合するインスタレーション作品が制作されました。

2014年にも日本人アーティスト1名を受け入れる素晴らしい機会に恵まれ、遊工房アトスペースの提案による主にビデオや錯覚を用いる非常に興味深いアーティスト、津田道子を受け入れることとなりました。彼女は9月初頭にコシツェに到着し、2ヶ月間の滞在制作を行いました。レジデンスに滞在するアーティストにとって、新しい都市、人々、作業場所は非常に刺激的であると同時に、もちろん短期間の間に色々と吸収しなければいけない難しさがあります。我々のレジデンス・プログラムでは通常、アーティストに滞在先環境を反映させた作品を制作することを願っています。アーティストは素早く旅の疲れ、時差ボケ、文化・習慣・食事の違い等乗り越えることが求められ、たった数週間であらゆる街を知り、滞在の最後に展示される作品のテーマを見出す必要があります。

滞在当初から彼女はビデオを媒体とすること、またその映像の編集方針に関するアイデアを持っていました。この他にもスロヴァキアの博物館を訪れることを決めており、滞在の前半には東スロヴァキア博物館、ミクラージュ刑務所、スロヴァキア工業博物館を訪れ、また調査の中から著名な写真発明家の博物館がさほど遠くないことが分かり、スピスカ・ベラにある J.M. ベツパール博物館も訪れました。またブラティスラヴァにあるスロヴァキア国立博物館とブラティスラヴァ城も訪れました。ビデオ作品の制作方法とスロヴァキアの博物館が彼女の制作の出発点となり、最終的にビデオ・インスタレーション作品「jet lag」として完成しました。

「jet lag」は、イメージが動くと言うシンプルな方針の元、新しい映像形式を探求した作品になります。博物館の展示物や建物が語り掛ける物語により、我々のアイデンティティの一部である歴史観が形成され、また展示物の見せ方によりその物語の理解のされ方が提示されます。「jet lag」は連続して投影される2つのビデオ作品から構成され、博物館で撮影された映像が其々のビデオで異なる順番に編集されています。これは博物館を訪れる人々が、展示物がもたらす情報を各々の心の中で編集する行為（時には読み間違え、誤解して）と同じになり、情報そのものが単純にイメージの順番で決まってしまうことになるのです。この作品と並行して、彼女が滞在中にどのような経路を通して博物館を訪れ、スロヴァキアの歴史をどの様に解釈していったのかを、展示スペースの中にテーブルを置き、博物館から集めた印刷物や彼女のメモ、スケッチを通して共有してもらいました。

2014年11月初頭、「jet lag」は Kasárne/Kulturpark (ECoC 任命時に文化施設として旧兵舎を改装) で展示されました。また作品の制作と共にオープン・スタジオ・ナイトと称して、地元観衆と会う機会も作りました。スポット(地域プロジェクト)がコシツェで主催した大規模なフェスティバル「Diversity」で、大変人気のあるイベント「Soup」にも K.A.I.R. を代表して Tilmann Meyer-Faje (オランダ人アーティスト) と共に率先して参加してもらい非常に嬉しく思っています。遊工房アトスペースとの協力体制継続の下、津田道子の滞在制作を成功に導くことができました。これも EU・ジャパンフェスト日本委員会の協力により、この機会を弊プログラムに取り入れることが出来たからこそと感じています。

## Boris Sirka

東京の遊工房アートスペースでの滞在は思いがけないものであった。

人生で初めて訪れる日本に3ヶ月間過ごせる機会を KAIR (Kosice Artist in Residence) で得ることができた。日本を訪れることは私の長年の夢であった。

私は日本のアニメや漫画をみて育ち、ホラー映画の大ファンである。

視覚的に気色の悪いものを見せる西洋のホラー映画の手法とは異なり、恐怖を要素としてうまく利用する日本のホラー映画の手法が好きである。この点は、過去数年間の私の作品に大きく影響している。

巨大な怪獣が東京を恐怖に陥らせるような映画やテレビシリーズをいくつか観た。しかし、そこにはいつもヒーローがいて街を救い、社会は破壊された街の復興をはじめた。しばらくの間彼らは平和に暮らすも、また新たに巨大な怪獣が海岸線に現れる。彼らは決して諦めないのだ。

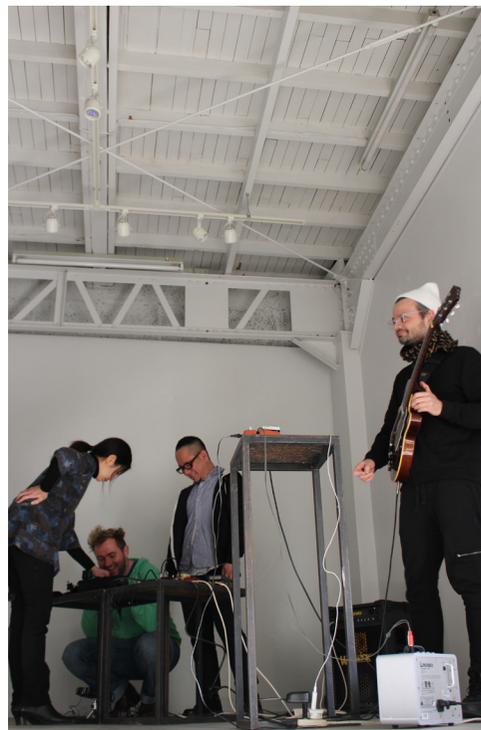
それは日本の歴史、物語、神話、そして現在までの伝説に大きく関係しているように思う。

私はクリエイティブなエネルギーがみなぎっていた。遊工房のスタジオで30枚の墨絵を描き、ビデオダイアリー (Boris Sirka\_Video Diaries on Youtube channel) を制作し、サイトスペシフィックなインスタレーションを善福寺公園で開催された「トロールの森」という野外アート展に出品した。

こちらに来る前は、以前の作品を引き続き行うつもりでいたのだが、あっという間にその考えは変わった。なぜなら、周りに影響されることなく制作を続けるというのは不可能だからだ。

私は素晴らしいサウンドパフォーマンスを数名の日本人ミュージシャンたちと行った。また、東京にある武蔵野美術大学と女子美術大学でゲスト講師としてレクチャーをした。学生に向けて話すというのは今回が初めてで、とてもいい経験となった。私は良い展示と素晴らしい舞踏を観に行き、そこで大勢の素敵な人々と出会った。





休暇で日本の美しいところを観た。例えば、鎌倉の大仏、葉山の海、鎌倉から自江ノ島へは自転車で行った。高尾山や日光では素晴らしい滝や寺社を観た。

これらの平穏な場所と対比して、それらのゆったりした場所とは対照的に、私は、渋谷、新宿、原宿などのネオンに溢れた、混雑した街をまた楽しんだ。普段、私は、吉祥寺、西荻窪や高円寺を歩いた。横浜トリエンナーレは、アジアの現代美術を知るうえで良い機会であったし、大塚橋橋頭もたいへん興味深かった。村田達彦さんと村田弘子さんは、本当にいい人達で、私にとって長年レジデンスをどのようにしてリードしていくかの良い例だった。

スタッフのジェイミー・ハンフリーズさんと辻真紀子さんは、いつも親切に対応してくれ、彼らとの水曜日ミーティングが楽しみだった。滞在中は、たいへん忙しかったが、多くの活動を解決し進めていくという、この機会が嬉しかった。私は多くの点で、より行動的になれるのだということを感じ、さらに、私のメインの制作や旅行のための十分な時

間もあった。もうすぐ一週間後に日本から帰国するが、もっと沢山の事を見たかった、しかし時間はあっという間にすぎた。遊工房アートスペースは、地球にある1つの美しい場所だ。またできるだけ早く戻ってきたい。そして「日本と呼ばれる惑星」で、楽しい生活を続けることができたらと願っている。

ボリス・シルカ



# ボリス・シルカ



## EDUCATION

2006 Completed studies at Technical University, Faculty of arts with title Mgr.art.

2003 Study at Academy of visual art, New media, Prague, Czech Republic

2000 - 2006 Study at Technical university, Faculty of arts, Department of Visual Arts and Intermedia, Studio of graphic and experimental creation, Kosice, Slovakia

1996 - 2000 Secondary School of contemporary art, Kosice, Slovakia Live and works in Bratislava, Slovakia

## SOLO EXHIBITIONS

2013 Some Time Ago, Plusminusnula gallery, Zilina, Slovakia

2012 Ouroboros, Sypka gallery, Valasske Mezirici, Czech republic

2012 Nearly End ( Percossi - Sirka ), Make Up gallery, Kosice, Slovakia

2011 Good Wolf, Bad Mirka, ( Bolf - Sirka ), House of Art, Bratislava, Slovakia

2011 Aenima, Miskolci Galéria, Miskolc, Hungary

2010 Aenima, FruFru gallery, Bratislava, Slovakia

2010 Aenima, Museum V.Loffler, Kosice, Slovakia

2010 Hurry the dead travel fast, Tabacka Kulturfabrik, Kosice, Slovakia

2009 Both sides of coins (Boris Sirka -Matus Lanyi), Art Gallery, Nove Zamky, Slovakia

2008 OBRAZ-OVKA(Boris Sirka - Marek Kvetan), Gallery of contemporary hungarian artists, Dunajska Streda, Slovakia

2008 Boris Sirka, Kressling gallery, Bratislava, Slovakia

## SELECTED GROUP EXHIBITIONS

2013 Beautiful Painting II, Piszatory palace, Bratislava, Slovakia

2012 Discovery of Slowness II, Tranzit studios, Bratislava, Slovakia

2012 Manifesta 9 Satellite Show, Genk, Belgium

2012 Skate remade, Photoport gallery, Bratislava, Slovakia

2012 FUTUvKE, AMoYA, Prague, Czech republic

2012 ObraSKov - slovak contemporary painting, Tatranska gallery, Poprad, Slovakia

2011 Zero Years, From Space to Beskid, Slovak Art 1999 - 2011, House of Art, Bratislava, Slovakia

2011 ObraSKov - slovak contemporary painting, Wannieck Gallery, Brno Czech republic

2010 Painting after Painting, Slovak National Gallery, Bratislava, Slovakia

2010 Sejfbook, Saris Gallery, Presov, Slovakia

2010 40, East Slovak Gallery, Kosice, Slovakia

2010 Inconspicuous medium, Cyprian Majernik Gallery, Bratislava, Slovakia

2010 Factory, A22 gallery, Kosice, Slovakia

2010 Supermarket Art Fair 2010, Stockholm, Sweden

2010 Inconspicuous medium, East Slovak Gallery, Kosice, Slovakia

2010 Auction Woxart a Weiss, Hotel Crown Plaza, Bratislava, Slovakia

2010 120 x 120 cover exhibition, 66 gallery, Praha, Czech republic

2010 Contemporary drawing, Studio gallery, Budapest, Hungary

2009 Contemporary drawing, Vice gallery, 2.patro gallery, Praha, Czech Republic

2009 Auction Woxart a Weiss, Hotel Crown Plaza, Bratislava, Slovakia

# その場所で制作すること

## 津田道子

レジデンスプログラムの中でアーティストとして、これまで暮らしたことがない土地を訪れるとき、自分は訪問者であるという気持ちがいつもどこかにある。それゆえ、一時的ではあっても、その時間を共有することに価値を見出すというとても寛大な理解の元に成立する体験なのだ、と謙虚な気持ちになる。

一方で訪問者は、その土地に生活してきた人とは違う視点で街を見ることになるから、これまでに気づかれていない点に焦点をあてられるのではないかと、思考をめぐらせるし、それが受け入れてくださる土地の人、また関係者に返せる唯一のこのようにも考えている。

制作をするときには、その状況によって取り組み方や形式を決めていく。特にレジデンスでは、そこで見つけたこととできることとをあわせて、自分にとって新しいことは何なのか貪欲に考える。見つけたことというのは、素材であったり、歴史的な事実であったり、風習であったり、生活のスタイルであったり、関心に引っかかることである。できることというのは、スタジオなど施設が持っている空間的制約と自分が持っているスキルが、その見つけたことと結びつく点をつくり出せそうなものことである。映像を使うことが多いが、素材や手法を固定しそこから展開するというよりは、素材や手法など根本的な部分をその土地から引き出して制作に取り組むにはどうするのがいいのか、考えながら生活することからはじめている。

今回のスロバキア、コシツェでの滞在制作は、これまでも他の地域で滞在制作したときから関心を持っていた「博物館」、特に歴史博物館を訪問し、展示物を撮影することからはじめた。歴史博物館は、その土地に住む人に向けてのものというよりは、わたしのような訪問者や子どもたちなどに向けてつくり出されていると言える。展示物自体にも興味があったが、博物館での展示は、力をいれて見せたいものはジオラマや等身の人形を使うなど、その土地をどのようにプレゼンテーションしようとしているのか、展示方法にもその土地の人の考えを見つかけられると考えたからだ。

実際にコシツェの博物館を訪問していくうちに、まず気づいたことが、英語での解説が少ないということであった。学芸員の方が丁寧に説明してくださったり、英語のオーディオガイドと共に見ていくうちに、なんとか詳細を理解していくが、言葉での解説なしに展示を見ているとき、多くの誤解をしていくうちに、むしろそれを楽しむようになった。同じ物を見ているもそれらの背景や、何と何を関連づけるのか、といったことを変えるだけで違ったものに見えてくるからだ。それは、わたしが訪れた多くの博物館でのプレゼンテーションが、言語が違う人へある強い意図を持ったものではなかったからなのかもしれない。

この多くの誤解をした体験から、わたしは博物館で撮りためた映像素材を使って、リサーチの記録映像となるような編集をすると同時に、全く同じ素材を使って、別の編集を行いもう一つのフィクションとなるような映像をつくり、二つの映像を交互に鑑賞するインスタレーションとすることを今回の制作の最終形態とした。二つの映像は全く同じ素材からできているが、並べ方によって異なる意味を持つ。この作品は、同じ素材からつくられた記録映像とフィクションとされているものを並列に見ることで、いずれも現実ではなく、そもそも博物館の展示物というのが、既に現実から切り離されたイメージであるという気づきの体験であり、現実とは何か、という問いにつながる。

プロセスの中で、博物館を訪問し可能な範囲でインタビューなどを行うことは、リサーチそのものでもあった。そこで発見したことを記録していくことは、現地にはいかないといけないことであり、世界史の教科書には載らないが、未だに人々の生活に関わる出来事などがあり、東欧の歴史の入り口を少しではあるが開けられたという気がしている。何度も国境を変更してきたことは現在も多くの市民が単一民族の家族構成でないことや、西ヨーロッパでの戦争の影響など歴史的なことだけでなく、対物レンズを明るくする方法を発明したヨゼフ・M・ペツヴァル氏や、長くスロバキアの塩の源になっていた塩水を発見したのは羊であったことなど、関心を引かれる事実によく出会えた。一緒に滞在した他のアーティストや、KAIRのスタッフや周囲の人からも、多くの情報とインスピレーションをもらい、恩恵を受けた。リテラルな歴史をより多く知るために、首都のプラティスラバを訪問した際、ロマの音楽の研究者のヤナ・ベリショヴァの仕事場兼自宅を訪問し、インタビューすることもできた。これは、貴重な研究や活動などを行っている方の資料をつくるという、滞在制作を通して美術作品の制作とは別の形で豊かな文化へのアプローチとなると考えている。

KAIRは、非常に若い組織で、アートの土壌を耕し始めた場所という印象が強かった。運営する人や関係者も若く、勢いがありアーティストに対してフレキシブルで、彼らはパイオニアなのだろうと思う。一方で、スロバキアの国民の性格なのか、シャイなところが多く、鑑賞者となる人たちや関係者とプロジェクトについて話しても、何を考えているのか最後に展示をするまではなかなか捉えられなかった。

作家活動の中で、過去の作品の発展をする機会はあるが、新しい手法などに実験的に取り組む機会を持つことは難しくなるが、レジデンスで制作することは、一方的に教えるというのとは違う相互的な「教育」のような側面もあると考えている。発表の機会を最後に見据えながら、2ヶ月間新しい手法に取り組むことができたのは、大変貴重なことであった。また、KAIRが持っているギャラリーは展示や制作するのに大変質沢な空間で、満足のいく展示をすることができた。きちんと見もらえる機会があるので、最終的に関係者や地元の方々との交流が生まれたと実感した。

全ての体験を通して、コシツェに滞在して支援を受けながら、活動できたことは今の時点でも大変貴重であったし、今後また東欧を訪れるときや、他の作品制作をするときにも、必ず生きてくる種をたくさん得ることができた。こういった体験や経験の機会をつくり運営している遊工房のみなさま、受け入れてくださったKAIRのみなさま、EUジャパンフェストのみなさまに心から感謝申し上げます。今後もこのような交流プログラムや関係がよりよい形で続いていくことを願います。

# 津田 道子



## EDUCATION

- 2002.03 Bachelor of Engineering. College of Engineering System. University of Tsukuba, Japan.
- 2006.03 Bachelor of Inter Media Art. Tokyo National University of the Arts, Japan.
- 2008.03 Master of Film and New Media. Tokyo National University of the Arts, Japan.
- 2013.03 PhD of Film and New Media Studies. Tokyo National University of the Arts, Japan.

## SOLO EXHIBITIONS

- 2012.11 Doctoral Final Exhibition, StudioA, Shinko Campus, Tokyo University of the Arts, Japan
- 2012.05-06 "Travelling" CHUV, Lausanne, Switzerland
- 2012.01 - 2012.03 "Occupants and King in the Configuration Forest", emergencies! #018 NTT ICC, Tokyo, Japan
- 2010.12 - 2011.01 "Dominos : Image Association Game" Common Room, Bandung, Indonesia
- 2010.05 "HOLES IN GAPS -cinematographic weavings from the Migratory Project" Youkobo Art Space, Tokyo, Japan

## SELECTED GROUP EXHIBITIONS

- 2014.05 "SCI-ART! SCIENCE, ART AND ILLUSION", Solyanka State Gallery, Moscow, Russia
- 2013.12-2013.02 "MEDIA/ART KITCHEN" Bangkok Art and Culture Center, Bangkok, Thailand
- 2013.04 "GEODESIE" Galerie B312, Montreal, Canada
- 2012.03 "story on story" Akyoshidai International Art Village, Yamaguchi, Japan
- 2011.10 "a visitor from looking-glass" space bandee, Busan, South Korea
- 2011.04 - 2011.05 "Changwon Asian Art Festival 2011 Self Camera" Sungsan Art-Hall, Changwon, South Korea
- 2011.02 - 2011.03 "Girl Friends Forever!" Tokyo Wandar Site, Tokyo, Japan
- 2010.12 - 2011.01 "DECOMPRESSION #10" Gallery National, Jakarta, Indonesia
- 2010.10-11 "BIKKURI" Aomori Contemporary Art Center, Aomori, Japan
- 2010.09-11 "Rokko Meets Art" Rokko Mt., Hyogo, Japan

## ARTIST IN RESIDENCE/AWARD/PRIZE/GRANT

- 2014.09-10 K.A.I.R. Artists in Residence Program, Kosice, Slovakia
- 2012.05 Arts and Culture grants from Nomura Foundation
- 2012.05 Grants for artistic projects from Asahi Shinbun Foundation
- 2012.01-03 Akiyoshidai International Art Village Artist in Residence Program, trans\_2011-2012, Yamaguchi, Japan
- 2011.09-10 Space Bandee Artist in Residence Program 2011, Busan, South Korea
- 2011.08-09 HONF Artist in Residency, Yogyakarta, Indonesia
- 2010.12 - 2011.01 Introduction of Japanese Culture, Japan Foundation, Dominos Video Workshop at commonroom, Bandung, Indonesia
- 2010.09 Artist in Residence Program in ACAC, Autumn 2010 BIKKURI, Aomori, Japan
- 2010.09 Rokko Meets Art
- 2009.09 Excellence Prize of cream competition
- 2008.06 Winner of first Leonardo Art/Science Student Contest
- 2007.12 Selected for screening, Pocket Films Festival in Japan
- 2005.09 First prize of urban museum, section of visual arts, Tokyo Competition#2

# 切断されるということ

## 自律した存在としてのアーティストとアーティスト・イン・レジデンス

### 金井学

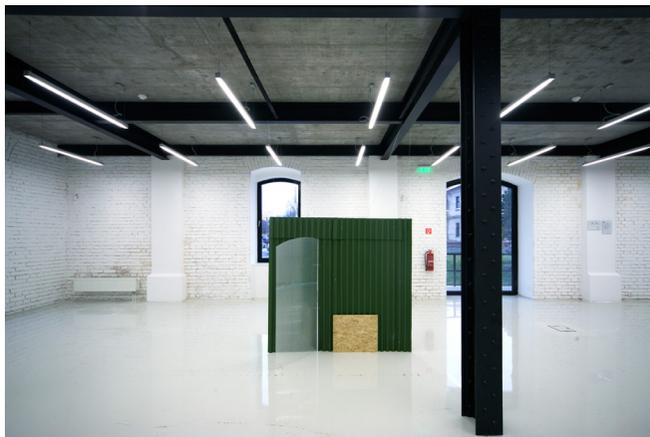
車窓から見える風景は明らかにまだ秋のものであったが、その空気の冷たさに驚きながらコシツェ駅に降り立ったのは10月2日のことであった。この時に感じた寒さは数日後、新しい地での3ヶ月間を風邪と共に始めさせたのであるが、今回のコシツェでの滞在は、私にとって初めてのスロバキア訪問であると同時に初めての海外での長期滞在であり、初めて聞く言語、初めて会った人々、初めて口にする料理に囲まれながら、自身の身体の不調をも初めて知ることのように体験したのであった。

今回の滞在先に先立って、私はあるひとつの目標を立てていた。というのも、一般にアーティスト・イン・レジデンスといえ、アーティストは滞在地の文化や事物に刺激を受けることを通して自身の制作を展開することを目指し、またプログラムを主催する組織はアーティストの活動を通じた文化交流やローカルコミュニティの涵養を期待するといったことが常であるのだが、私の場合には制作活動の方向性が一般的なレジデンス・アーティストのそれとは異なっていたので、前もってその目的や指針をより明確にしておく必要があったからである。

私にとっての制作活動は、端的に言えば、世界を抽象化し記述するための技術を自身の手によって組み立てることだ。例えば、宗教が神の存在を通して世界をその秩序の下で物語ろうとしたり、数学や物理学が宇宙における万物の振舞いをその公理に則って記述する事を目指すのと同様に、世界と事物をいかに把握し、抽象化し、そして秩序立てて記述し得るのかを問い、自らの手でそのための枠組みを作り出す（つまりこれが作品である）と考えるのだ。従って、このような私の制作活動は必然的に滞在先の文化や習慣等に依拠するものにはなり得ない。それ故、私が今回のコシツェにおける滞在制作に期待した事柄は、それとは別の位相に位置する事柄、即ち自身が日常的な文脈から「切断される」ことにこそあった。

先に、私は美術作品の制作行為を世界を抽象化し記述するための技術を自身の手によって組み立てることだと考えていると書いた。これは、つまりアーティストは常に独立し、自律した存在——何ものにも拠らず自らの法は自ら敷く者、その法に拠って世界を記述する者——であること意味するわけだが、しかし慣れ親しんだ環境や言語、文脈の中に居続ける事は、しばしばこのような姿勢を保つことを困難にさせる。時に既存の制度が自明な事柄に思われ、知らず知らずのうちに自身の方法論への問い直しが鈍ることがあるからだ。だからこそ「切断される」ことを——つまり、誰も知らない場所、何もわからない環境の中で、軽やかに漂う事を——私は目標に据え、試みることにしたのであった。

3ヶ月の滞在先を終えた今振り返れば、この試みは私に多くの成果をもたらしたように思われる。コシツェでは、私は作品の材料となるものを売っている店も、その場所への行き方も知らなかったし、当然の事ながら私のこれまでの制作活動を詳しく知っている人も誰一人としていなかった。しばしばコミュニケーションでは誤解が生じ、物事はなかなか予定通りに進まなかった。このような状況は、概してネガティブな事態と捉えられる事ではあるのだが、慣れ親しんだものから「切断される」という意味において、私は非常にポジティブな契機として受け取った。その状況は常に私自身の制作活動の意味を一から問い直し続けることを（半ば強制的に）可能にし、私にとっては制作の背景にあるアイデアをいかに明確にし説明するかということをじっくりと考える機会を与えてくれたのである。また時には様々な制約から、私は作品のプランを変更しなければならなかったが、それは私の制作や作品にとって何が一番重要

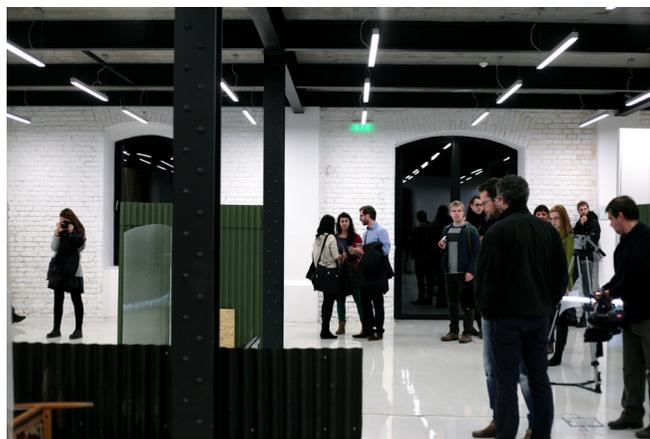


なことであるのか、制作のプロセスにおいて何が変更可能で何が変更不可能なことなのかを突き詰める貴重な経験となった。もちろんこのような状況の中で制作を展開することは、まだ経験の乏しい私にとって決して楽なことではなかったが、しかし——というよりも、だからこそ——掛け替えのないトレーニングの機会になったのではないだろうか。

この3ヶ月間のアーティスト・イン・レジデンス期間の中で、12月に行われた最終的な成果展としての個展の他、10月にコシツェ市内全体を使って開催された「white night」での作品展示の機会、またオープンスタジオでのプレゼンテーションなど、多くのことを学ぶ機会を与えて頂いた。またこれらの機会は、貴重なトレーニングの機会となっただけでなく、私の制作活動を支える考え方が本質的には間違っていなかったのだという、強い確信をも与えてくれる経験となった。「日本人のアーティスト」であることや、「日本における自身の立場」など、もはやこのレベルにおいて何の役にも立たない。言うまでもなく世界は途方もなく広いのであり、その中でアーティストは何にも抛らず、国籍も言語も文化も超えて漂いながら自律的に世界像をブートする存在でなければならない。この意味において、アーティストにとってアイデンティティなどいくらでも交換可能なものであり、今回の経験はそのような存在として今後も活動し続けていきたいという決意を新たにさせる機会ともなった。

このような私の活動はコシツェ市民の方々には目にはどのように映ったであろうか。私の存在は、同時期に滞在していた外国人アーティストの1人に過ぎなかったかもしれないし、或はあくまで「日本の」アーティストとして接して下さったのかもしれないと思う。しかしながら、どこにも抛り所をおかず漂うような制作と滞在を心掛けていた私の活動が何かのきっかけになるようなことがあったのであれば、これ以上に嬉しい事はない。

最後になったが、このような貴重な機会を与えて下さった K.A.I.R.-Kosice Artist In Residence と遊工房アートスペース、そして EU- ジャパンフェスト日本委員会事務局に御礼を申し上げたいと思う。再び日本に戻りアーティストとしての活動を継続する予定だが、この機会に得た貴重な経験を、日本とスロバキアに留まらず世界各国での活動に繋げいかしていきたい。



# 金井 学



## EDUCATION

Ph.D, Tokyo University of the Arts, Tokyo, Japan 2012-2015

Master's degree in Media Creation, Institute of Advanced Media Arts and Sciences(IAMAS), Gifu, Japan 2005-2007

Jiyu Gakuen (4-years miscellaneous school), Tokyo, Japan 2001-2005

## SOLO EXHIBITIONS

A standard for several things, A-things, Tokyo, Japan 2014

Interpenetrating Spaces, Suspended Coincidence, Kasárne/Culture Park, Kociše, Slovakia 2013

observation and description, Youkobo ART SPACE, Tokyo, Japan 2011

Landscapes from the Arbitrary Places, Youkobo ART SPACE, Tokyo, Japan 2009

## SELECTED GROUP EXHIBITIONS

Tokyo University of the Arts Doctoral Program Final Exhibition 2014, Tokyo University of the Arts, Tokyo, Japan 2014

Fukakai no Literacy, Tokyo Metropolitan Art Museum, Tokyo, Japan 2013

White Night/Biela Noc, Kociše, Slovakia 2013

Yadokari Tokyo vol.9 "secret rooms", Healthy life Building, Tokyo, Japan 2013

Taro or Alice vol.4, Tokyo University of the Arts YUGA Gallery, Tokyo, Japan 2013

Transmission, AIRPLANE Gallery, New York, U.S.A. 2013

3 Japanese Artists in WEYA 2012, Youkobo ART SPACE, Tokyo, Japan 2012

TRANS ARTS TOKYO, the old Tokyo Denki University building, Tokyo, Japan 2012

Sumidagawa Shin-Meisyo Monogatari, Sumida Park Riverside Gallery, Tokyo, Japan 2012

WEYA - World Event Young Artists 2012, Nottingham, U.K. 2012

Taro or Alice vol.3, Tokyo University of the Arts YUGA Gallery, Tokyo, Japan 2012

The 6th Daikokuya Contemporary Art Award Exhibition, Daikokuya, Tochigi, Japan 2011

Screening Camp, Endo Bldg 3F, Tokyo, Japan 2007

Central East Tokyo 2007, Tokyo, Japan 2007

Dislocate 07, Ginza Art Laboratory, Tokyo, Japan (unofficial) 2007

Group Exhibition, MOTT Gallery, Tokyo, Japan 2007

## ARTIST IN RESIDENCE

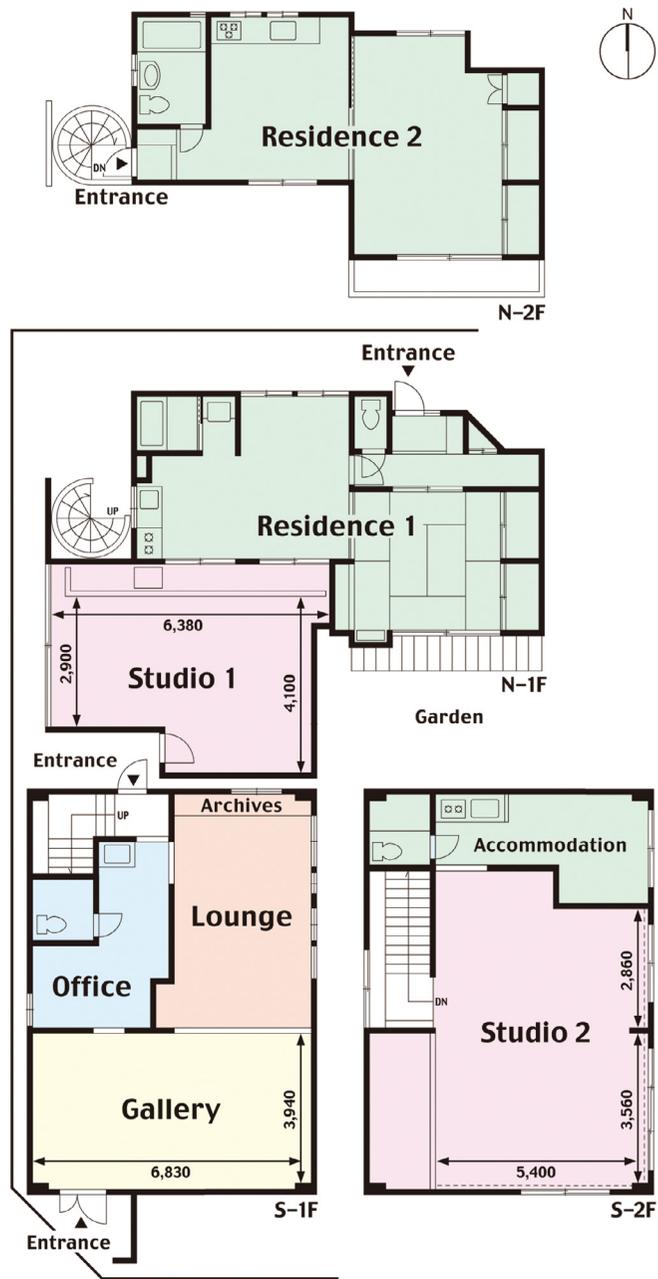
K.A.I.R.-Kociše Artist In Residence, Kociše, Slovakia 2013

## AWARD/PRIZE/GRANT

won a prize at The 6th Daikokuya Contemporary Art Award 2011

## WORK EXPERIENCE

Research assistant at the Department of Information Design, Tama Art University, Tokyo, Japan 2007-2010



## 遊工房アートスペースのなりたち

遊工房アートスペースは、1980年代より美術教室、彫刻アトリエ、アニメーション・スタジオなど、様々な美術活動の「場(スペース)」となりました。1950年代から80年までは、診療所兼療養所として使われていましたが、時代の変遷と共に姿を変えました。2001年、さらに活動を充実させるため、主に現代美術の発信を目的とするギャラリー、創作スタジオ及び滞在施設を備えたアートの複合施設として生まれ変わりました。グローバルなアーティストとの交流や、地域に根ざした芸術活動の場となり、同時にアーティスト・イン・レジデンスも本格化し、着実に歩みを重ねています。

ギャラリーは、近年では珍しいイペット工法の鉄骨が剥き出しになった高い天井のホワイトキューブの快適な空間で、隣接したラウンジは、交流とアーカイブ資料閲覧のスペースです。また、併設の創作スタジオ及びアーティスト・イン・レジデンスもご利用頂けます。これまでに、20ヶ国200名余りの海外からのアーティストが滞在し、活動を通して新たな経験を積むとともに、200名を超える国内外の若手アーティストを中心とした展覧会が行われています。(2014年3月現在)

東京・杉並区の西北に位置し、近隣には、都立善福寺公園、井草八幡宮、善福寺など、緑豊かな環境が残り、都心までのアクセスも良好です。ご利用など、詳しくはホームページをご覧ください。



〒167-0041 東京都杉並区善福寺3-2-10

Phone: 03-5930-5009 Fax: 03-3399-7549

E-mail: info@youkobo.co.jp

# youkobo ART SPACE

## 受入先概要

### KAIR

In the frame of “European Capital of Culture” the NGO “Kosice 2013” is developing an international artist-in-residency-program for emerging artists from all over the world and out of all artistic disciplines and expressions. We will give them the possibility to become a cultural pioneer and work in the inspire environment of Kosice`s singular cultural surrounding to realize art projects, collaborate with the agile local art scene and present themselves to the local and national public.

We pursuit three main goals within this residency-project:

Support the creative energy of every invited artist and give him/her the chance to work in a new and very special environment to find (new) artistic ways to express.

Stimulate the art scene in Kosice, in the region and in whole Slovakia. Support the dialogue as well as the confrontation of the residency-artists with local artists and the wide public.

Create/strengthen a beneficial environment for the development of innovative and international contemporary art projects with international and local participants.



# マイクロレジデンス・ネットワークの始まり

マイクロレジデンス提唱者

遊工房アトスペース・共同代表

村田達彦

アーティスト・イン・レジデンス（AIR）とは何か？と問うた時に、ひとくくりでは語れない現状がある。事業内容、運営主体、規模などが異なる多様な形が在るからだ。AIR 事業の基本は、生活者としてのアーティストの創作活動の場と機会を提供するものと捉え、これらの運営体・活動を総称したものを、「マイクロレジデンス」とする提案である。

このウェブサイト、AIR のネットワーク「Microresidence.net」は、マイクロレジデンスの顕在化と相互の活動の促進が図られ、AIR の存在が、社会的な器となることを期待する有志により始まった。2012 年秋、東京に参集したマイクロレジデンス・ディレクター（パッチャルな集いも含む）を中心に、各 AIR 運営者の責任のもとに発信することで準備が始まり、2014 年 1 月運用開始した。

多くのアーティストや関連する方々に認知され、アーティストの創作活動の場と機会となり、アートが社会に不可欠である証として、AIR 活動が重要な社会装置であることを広く周知させるために、一層多くのマイクロレジデンス機関の参画を期待している。

マイクロレジデンス・ネットワーク

[www.microresidence.net](http://www.microresidence.net)

（注）Web 発足にあたり、2012 年の調査への積極的な応答をくださった国内外のマイクロレジデンス、そして、2012 年秋、東京の遊工房アトスペースで行われたマイクロ・ディレクターズ・トークにご参集くださった皆様に深く感謝申し上げます。2012 年の集いの活動内容と成果は、下記を参照頂きたい。

[http://www.youkobo.co.jp/microresidence/index\\_en.html](http://www.youkobo.co.jp/microresidence/index_en.html)

